

## 20. デセプション島 テレフォン湾（東部）

南緯62度56分 西経60度40分

# ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



### 主な特徴

- 噴火口
- 景勝地
- 第4南極特別管理地区デセプション島の一部



### 概要

#### 地形

テレフォン湾の最東端では、緩やかに傾斜する海岸が広く浅い谷へと続いている。谷は、いくつもの名もない噴火口に急激にそびえ立つ。噴火口の深さは一番深いもので45mに達するが、今も堆積物や氷が徐々に噴火口を埋めている。谷の東側と西側にそびえる灰の目立つ崖は古い噴火口の名残であり、1967年の噴火により谷そのものが広がり、噴火口も形が変わった。

#### 動物相

上陸する種：ナンキョクオットセイ、ウェッデルアザラシ

休憩する種：トウゾクカモメ

#### 植物相

このサイトは全体的には不毛の地に見えるが、よく見ると目立たないが植物相がある（テレフォン湾地区では蘚類14種、地衣類8種が記録されている）。隣接する第40南極特別保護地区（地区F）は、植物学的重要性から保護地区に指定されているが、その主な理由は、同地区内の地表面が1967年に形成されたものであり、植物などの生物相のコロニー形成を正確に観察できることである。

### 訪問者の影響

#### 既知の影響

なし

#### 潜在的影響

噴火口の稜線上の小道の侵食。科学調査機器への妨害。

### 上陸要件

#### 船舶\*

最大乗客数：500名

同時来島可能船舶：1隻

注釈：1日あたり船舶は3隻まで、そのうち乗客が200名を超える船舶は2隻までとする。

\*船舶の定義は、13人以上の乗客を乗せた船とする。

#### 訪問者

同時に上陸・滞在できる訪問者数上限（探検ガイドとリーダーを除く）：100名

ガイド1名あたりの訪問者数：20名

## 20. デセプション島 テレフォン湾（東部）

南緯62度56分 西経60度40分

# ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



### 訪問区域

#### 上陸区域

噴火口のすぐ南西にある海岸。

#### 閉鎖区域

なし

#### ガイド同行での歩行（可能）区域

訪問者は、ガイドの指示によく従い、少人数グループで噴火口まで行くことができる。また、ガイド1名につき、グループ人数は1～15名とする。噴火口の縁ではガイドの指示によく従うこと。

#### 自由散策区域

訪問者は指示を受けた上で、上陸した海岸地域を自由に散策できる。

### 訪問者の行動規範

#### 陸上での行動

- 安全のため野生生物からは5mの距離を置くようにし、動物には道を譲ること。動物の行動に何らかの変化が見られた場合は、この距離を増やすこと。
- 地震監視装置や他のタイプの科学調査設備からは、20m以上の距離を置くこと。こうした装置類には通常、目印として赤い旗が付いている。その他の科学調査機器、標識、野外倉庫に触ったり妨害したりしてはならない。こうした機器類は、地震活動およびその他火山活動の兆候を測定しているものであり、デセプション島のリアルタイム監視地震観測網の一部である。地震モニタリング装置も含めたデセプション島地震計装の地図が作成され、シーズンごとに更新されることになっている。
- 訪問は、第4南極特別管理地区（ASMA）デセプション島管理計画に従って行わなければならない。
- 踏圧に弱い植生区域を踏みつけてはならない。
- 噴火口の縁付近では、ゆっくりと注意して歩くこと。
- できれば既存の小道から外れず、急斜面では一列で歩くこと。
- 海岸沿いにいるペンギンを立ち退かささないよう注意する。

#### 注意事項

- 火山が噴火する恐れがあり、そのため重大な危険性がある。訪問計画を立てる際は常にこの点を考慮すること。
- 噴火口の縁の切り立った崖に近づく際には、細心の注意を払うこと。土壌がもろく、足元が崩れる可能性がある。
- オットセイ、アザラシが海岸に上陸している場合、訪問者は上陸前に速度を落とすこと。



上陸海岸

# 20. デセプション島 テレフォン湾（東部）

南緯62度56分 西経60度40分

# ANTARCTIC TREATY

visitor site guide



展望地点

